梅林の世話は楽しいよ

＊花山梅林会＊

春になると850本もの紅梅・白梅が咲き乱れる花山梅林。ここで15年も梅の世話を続けている花山梅林会の活動を紹介しよう。澄み渡った秋空の11月16日、花山小学校（北区）の裏山で作業中のメンバーを訪ね、代表の礒野彰夫さん（生環7期）に話を聞いた。

現在の会員は25人（女性は5人）。この日は10人が参加して梅林の剪定作業。込み入った枝をバサバサと切り落とし、絡まったツタを取り除き、雑草を刈り込む。高い木が多く急斜面なので高齢者にはつらいという。ただ、思わぬ副産物もある。木の根元ではカボチャが良く育つし、大きなシイタケも採れる。伐採した枝はチップにして堆肥にするが、カブトムシもたくさん育つ。

ひと汗かいたところでコーヒータイム。梅林の世話はどうですか、と聞いてみる。「自然を相手に汗をかくのは楽しい」「裏山を染める満開の花、

漂う香りがいいよね」「たわわに実る梅の実を見ると達成感がある」と元気な声が返ってくる。だが、共通の悩みはメンバーの高齢化と仲間が増えないこと。斜面での作業は危険も伴うので人手はもっともっと欲しいが、メンバーはせいぜい年に1～2人が入れ替わるくらい。「我々もいつまで出来るのか」と悩みを打ち明けてくれた。代表の礒野さんも会の発足時のメンバーだが、将来のことを考えると不安になるという。

梅林のスタートは2005年。花山小の6年生が卒業記念に植樹を続けてきたが、ざっと1000坪はあろうかという裏山一帯も2018年には植える場所がなくなり、植樹は中止となった。現在は実の大きい南高梅など7種類の木が大きく育っており、剪定や施肥、草刈り、梅の実の採り入れが主な仕事だ。天気が良ければ月に2回メンバーが集まり、お喋りしながら作業をする。

何といっても心が浮きたつのは、山全体が花に染まる２～４月と、6月の実の採り入れ。3月には地域の人や知人を招いて賑やかに観梅会を開く。6月に収穫した実は会員や児童、PTAで分けるほか、市価の25%くらいで一般にも販売する。収益は肥料や機具代に充てるという。

入会や年間作業などの問い合わせは、代表の礒野さん（５８３－５７７４）まで。

取材　南形徹　　写真　芦田義和

写真は㊤剪定作業中の礒野さん㊨ティータイムにくつろぐ梅林会メンバー（11月16日）

ボランティアの現場⑤